

令和元（2019）年度 第2回 水工学委員会および幹事会 議事録

日 時：令和元年 11 月 4 日（月）18:15～20:30

場 所：大宮ソニックシティ 会議室 906

出席者：清水義彦，二瓶泰雄，鼎 信次郎，天野光歩，石徹白伸也，入江政安，内田龍彦，大石 哲，小原一哉，片山直哉，川越清樹，川村里実，佐藤隆宏，佐山敬洋，杉原裕司，諏訪義雄，武田 誠，谷口健司，田端幸輔，手計太一，藤原賢也，堀 智晴，溝口敦子，三輪 浩，森本 輝，芳村 圭，萬矢敦啓，渡邊明英，浅沼 順，泉 典洋，梅田 信，風間 聡，重枝未玲，竹林洋史，立川康人，田中賢治，田中茂信，田中規夫，椿 涼太，戸田祐嗣，中山恵介，宮本仁志，森脇 亮，矢野真一郎，吉田圭介，中北英一（顧問），道奥康治（顧問）

欠席者：炭田英俊，知花武佳，赤松良久，山田朋人，横山勝英

記録者：田端幸輔

（以上，敬称略）

0. 清水委員長挨拶

- ・議事に先立ち，清水委員長より挨拶があった。
- ・続いて，小松利光前顧問より挨拶があった。

《報告事項》

1. 令和元年度水工学委員会構成

資料1

- ・二瓶幹事長より，今年度の水工学委員会の構成について説明があった。

2. 令和元年度水工学論文集編集作業

資料2

- ・鼎編集幹事長より，論文投稿数・採択数，講演会活性化への取り組み状況について説明があった。
- ・「水災害・防災・減災」への投稿数が増加傾向にある。査読委員の補充や，査読キーワードの追加等について，水害対策小委員会委員長田中茂信先生を中心として検討予定である。
- ・アウトスタンディング・ディスカッション賞は，今後も継続する。ただし，同じ人が何度も受賞しないように配慮する必要がある（3回の受賞を上限とする等）。
- ・企業広告が前回の12社から18社に増加した。

その他，以下について議論された。（いずれも継続審議）

①発表スライドの英語表記への対応状況と今後の方針について

- ・英語表記方法の統一がなされておらず中途半端である。やるなら徹底すべきではないか。
- ・発表者へのアナウンスの仕方にも課題がある。また，学生にとって英語によるppt作成はハードルが高く，指導も労が多い。明確なルールは決めずに，あやふやなくらいがちょうどよいかもしれない。

②論文集のメディアについて

- ・CDが参加者にとって最適なメディアなのか。例えば，Web上でダウンロード（DL）できるようにはしないのか。CDドライブを登録していないノートPCが増えてきているので，USBでもよい。他には期間限定のDLや，受付にDL用端末を置く等の対応も考えられる。
- ・CDよりもUSBの方が単価は高い。WebからDLするシステムは技術的には可能である（事務局）。
- ・今後は，WebでのDLについて，実現可能性の検討を行う。

3. 部会・小委員会・関連委員会の活動報告及び活動計画

- 部 会：水文部会（資料3-1），基礎水理部会（資料3-2），河川部会（資料3-3），環境水理部会（資料3-4）

- ▶常置小委員会：水害対策小委員会（資料3-5）
 - ▶研究小委員会：流量観測高度化小委員会（資料3-6），グローバル気候変動適応研究推進小委員会（資料3-7），河道管理研究小委員会（資料3-8）
 - ▶関連委員会：CommonMP開発・コンソーシアム（資料3-9），流域管理と地域計画の連携（資3-10），河川懇談会（資料3-11），海岸工学委員会（資料3-12），IAHR日本支部（資料3-13），土木学会論文集編集委員会（資料3-14），
 - ・各部長，小委員長および関連委員から，各分会，各小委員会，関連委員会の活動報告と今年度の予定に関して説明があった。詳細は資料のとおりである。
 - ・二瓶幹事長より，各分会で実施される研究集会の案内等は，活動内容を共有するためにも，なるべく水工MLを使って共有いただくようアナウンスされた。
4. 令和元年度水工学に関する夏季研修会 資料4
- ・戸田委員より令和元年度水工学に関する夏季研修会について報告された。
 - ・次回テーマの決め方について，夏季研修会のリピーターの意見を伺う等の案が提示された。
5. 水シンポジウム2019in滋賀 資料5
- ・二瓶幹事長より，水シンポジウム2019について報告された。
6. 水工学のML 資料6
- ・梅田委員より，MLの運用改善の取り組み状況について報告された。
7. 令和元年度の年間スケジュール 資料7
- ・二瓶幹事長より年間スケジュールについて説明があった。

《協議事項》

1. 令和2年度第65回水工学論文集編集作業 協議資料1
- ・鼎編集幹事長より，次回の編集作業スケジュールについて説明があり，承認された。
 - ・来年の開催日は今年と同じなので，全体スケジュールについて大きな変更はない。
 - ・通常号や特集号をプログラムに含めることについては，アクセプトの日にちを設けていたので結果的にはそれほど困難ではなかった。ただし，来年は台風19号関連の特集号が増えることが予想されるので，編集作業を円滑に進めるために通常号の投稿状況を注視する必要がある。
2. 令和2年度第65回水工学講演会の開催 協議資料2
- ・手計委員より，第65回水工学講演会の日時，開催場所等について説明があり，承認された。
 - ・企業展示は，例年どおり受付フロアの一部を使うこととなった。
 - ・自治体の後援により15%，共催により30%もの割引が適用されおり，今後の運営でも活用すべきである。割引申請には締め切りがあるため，早めに次期開催地を決定する必要があるとの意見があった。
3. 令和2年度水工学に関する夏期研修会 協議資料3
- ・森脇委員より，令和2年度水工学に関する夏季研修会の日程，開催場所，担当者の説明があり，承認された。
4. 令和2年度水シンポジウム 協議資料4
- ・清水委員長より，令和2年度水シンポジウムの実行委員会名簿，日程・会場，メインテーマ，プロ

グラム（案）について説明があり，承認された．

- ・分科会を別会場とするかどうかについては調整中である．

5. 令和元年度水工学委員会の予算

協議資料5

- ・二瓶幹事長より，今年度予算の収入と支出について説明があり，承認された．
- ・年度末までに予算消化する必要があるので，各部会，小委員会で過不足ありそうであれば早めに幹事長に連絡するよう，アナウンスがあった．
- ・学会内における水工学委員会の寄附金口座は現在3つある．そのうち，今年度で1つは使い切るため，残りの口座は2つとなる．学会事務局より，管理を簡素にするため，口座を1つに統合することが提案され，了承された．ただし，寄付口座の用途として決められていた「水工学論文賞などの賞状と盾」については，水工学委員会の関係予算で必ず継続して支出していくことが確認された．

6. 水シンポジウム開催の課題

協議資料6

- ・二瓶幹事長より，水シンポジウム開催の課題が説明された．特に，開催対応可能な自治体が減少していることから，以前に開催したことがあり，積極的であった県には，二度目の開催をお願いする案について審議された．都道府県単位だけでなく，水系単位での開催も含め柔軟に対応していくことで，委員の承認を得た．

この件に関して，他に以下の意見が挙げられた．

- ・水シンポジウムは，学会発信のアウトリーチ活動として重要な意味を持っている．開催地となる自治体の負荷は大きいですが，その一方で，シンポジウム開催のメリットを伝え，開催を促進することが重要である．
- ・参加者大多数は，地元，コンサルタント，行政であり，市民の参加は少ない．このため，例えば水工学講演会初日の河川災害シンポジウムとセットにする案や，市民が多く集まる地元イベントと併せて開催することも視野に入れていく必要がある．また，平日に開催し，自治体の河川技術者が参加しやすいようにすることや，中小河川にもスポットを当てることも考えるべきである．
- ・防災意識が高く自主的に活動している自治体やNPOを巻き込み，エンカレッジする形をとることも考えられる．災害後にどうリカバリーしているのかに焦点を当てるのもよいかもしれない．この点については河川財団にも相談する．河川財団には，助成だけでなく協賛としてもっと深く関わって頂く必要がある．

以上